

令和7年度釜石市市政懇談会会議録【質疑応答・概要】

日時 令和8年1月24日（土）10時～11時45分

場所 栗橋地区基幹集落センター

参加者数 22人

■質疑応答

- ① 第六次釜石市総合計画後期基本計画について
- ② 釜石市立地適正化計画について
- ③ 鶴住居小学校と栗林小学校の統合について
- ④ その他

【Aさん】

各項目ではなく、まとめて質問を受けていただけないでしょうか。

<オープンシティ・プロモーション室長>

どの項目でもよろしいですので質問をお受けします。

【Aさん】

市政懇談会を開催していただいたことに感謝します。人口減少対策が一番大切だと思っています。どうにか人口減少を抑えられないでしょうか。

<オープンシティ・プロモーション室長>

市政懇談会は令和2年度に開催しており、5年ぶりの開催となります。急激に人口減が進んでいますが、この中身はお亡くなりになる方と生まれる方の差が、3年間で600人ぐらいいます。700人亡くなられて、100人くらい生まれています。また、釜石から出て行かれる方と入ってくる方、いわゆる社会減が250人くらいです。年間平均で850人くらいずつ人口が減っているところです。釜石の人口のピラミッドは高齢化率が高くなっており逆三角形の形になっています。人口減少はこれからも進んでいくと思います。私たちの方で大事なものは社会減です。いわゆる入ってくる人と出ていく人の差をどうやって狭めていくのかということが大事だと思っています。特に若い人たちが釜石に残ってもらえるように、或いは釜石に来てもらえるような施策を今取り組んでいます。一足飛びでできることは難しいかもしれませんが、1歩ずつ、釜石に残ってもらったり、入ってきてもらえるような施策を打っていきたいと思っています。

【Bさん】

人口減は進んでいますが、釜石市の面積は変わっていませんよね。農地もほとんど変わっていない、逆に放棄地が増えています。その中で最も変わっていないのは、国の法律です。農業振興地域の問題は全然変わっていません。自分の土地じゃない土地も管理しなければならない。この後期計画にこの辺は全然邪魔にならないのかどうか、或いは現在農業振興地域がどのくらいあるのか。もし分かればお願いします。自分の土地が農業振興地域と知らず建物を建てる等、色々なことに使っていると思います。売却しようとした場合、あとで気が付くと処分になりますよね。

<産業振興部長>

ご存じのとおり国の法律で農業振興地域は農業振興地域の整備に関する法律に基づいて、それぞれの市町村が農業振興に係る農地の場所を指定しています。土地の活用は、国や各市町村の農業委員会を中心に農地の集約やさらなる農地の活用について、農業者の方々と意見交換をして、その先を考えましょうということで色々な動きがあると我々も認識しています。法律上、縛りがあるということも認識しています。その範囲の中でその活用策を見出していきたいと思っています。

2点目の質問ですが、農地と指定されていて、転用したいのだけれどもなかなか厳しいということなのだと思います。農業振興地域の整備に関する法律に関する中では原則禁止となっています。しかし禁止の中でも、近年は営農型農業といって支柱を立て太陽光パネルを上上げてその下で農地として使うというものが増えていまして、3年間、一時転用できます。3年ごとに更新ができますので、現状を確認審査しながら更新して農業を行っていくといった動きも出てると認識しています。法律自体に変化がないので、その制度の中で対応していきたいと思っています。

【Bさん】

私もその辺は分かるのですが指定する場合、その持ち主も入っているのか。或いは何年頃入って、どこまで続くのか全然分からないですよね。だから、農業振興地域は農業をするためにあるわけです。放棄地になったり林のようになったりそういう状況もあるわけです。その辺を把握しないで法律だけが生きているのは生産者等から見れば、疑問が相当あると思います。本当にそこが農業振興地域なのかそれに適した土地なのか、市の皆さんも現地を見ながら、国に対しての考え方等を提案する必要があるのではないかと私は考えています。

<産業振興部長>

10年に1度、農地事業計画いわゆる人・農地プランや最近では地域計画という話で、地元に入って色々意見交換して決めているものがあると思います。その内容にこの農業振興地域の農地利用の話も含まれています。それを踏まえた上で、農地の利用計画を策定して

いることになるのですが、近年使わない農地も増えていますので、国或いは県、農業委員会と意見交換しながら、県内全体の農業委員会の事務局を通じた国への要望など機会をとらえて働きかけ、可能性を見出していきたいと思っています。

【Cさん】

昨今話されている森林経営管理制度について知りたいです。併せて森林環境譲与税が導入されて、本格的になって3年ぐらい経つと思いますがその活用状況を教えてください。

<産業振興部長>

森林経営管理制度は、市でも令和2年度から取り組んでいます。県の森林計画と市の森林計画など森林林業の活用をさらに進めていこうという制度です。これは長期計画で、市では13から14年かけて取り組むことにしています。令和2年に栗林地区の地域の方々にまず意向調査をしまして、その後集積できるもの、或いは集積できなければ、市が担うもの、或いは林業事業者が担うもの、個人が担うものという配分計画を進めています。令和3年は鶴住居・片岸。令和4年は箱崎地区。令和5年は東部と両石。このように各配分計画・集積計画を進めていまして、期間は令和8年から小川、甲子、平田と順番に進めていくこととしています。橋野、和山は令和15、16年ぐらいの計画です。これを進めることで、使われなかった山の整備が進んで、さらなる木材利用にも寄与するのではないかと、我々も取り組んでいるところです。県内では釜石が1番最初に、この制度に取り組み始めております。

森林環境譲与税、森林環境税のご質問です。国から山の整備のために入ってくるお金が森林環境譲与税です。これが2019年度から始まった制度になりまして、この制度は、間伐などの林業整備や、林業人材の育成、或いは木材利用促進等に使いましょうということで、全国の市町村に配分されているものです。この配分された後の使い方を、必ず公表してくださいという義務付けがありまして、市ホームページで公表しています。令和5年度は、森林環境譲与税が5,493万2千円入ってきていまして、森林経営管理に関する管理制度の推進に当たるものに約400万円。或いは森林組合と連携して小中学校を対象にした森林環境学習に100万円程度充てたり、その集積計画の作成に係るものに充てたり、林業の整備に関する事業に充てたりしています。ほぼ同じような内容で森林に関する事業に活用させていただいています。

【Cさん】

市ホームページも見ました。使った項目は当然出てはいますが、いくら使ったのか合計が出ていません。国からのお金は出ている。何で合計が出ていないのかと思いながら、質問しました。基金として積み立てられているのは結構な金額になっていると思います。大体半分ぐらいしか使っていないと思います。だからもう少しそれを使った森林の整備なり

に力を入れるべきではないのかと問題意識があります。要するに市役所の人と話をするとお金がないという話ですが、少なくともこの森林関係に関しては特定される使い道ですけれども、使う金はあると。だからそれを使って色々な補修なり企画ができるのではないかと。そういうふうに整理されている市町村もホームページを見るとあります。今回の計画の中にもう少し踏み込む必要があるのではないかと思います。それから情報公開はもう少し分かりやすくなるように工夫をしてほしいです。そうしないとみんな参加できません。

<産業振興部長>

ホームページには各取り組みの数字は出ているのですが、合計は出ていないので大変失礼しました。より見やすいように、工夫したいと思っています。後期計画の資料 99 ページが森林に関する事業の施策を記載しているところです。釜石は 89.2%が森林と認識しています。林業経営体が全国的に減っている中で、この森林管理経営制度は森林環境譲与税を活用しながら、山を生かした地域の産業、人材育成を長期に渡り取り組んでいく必要があると考えていますので、この財源を活用して森林組合と連携しながら取り組んでいきたいと思っています。

【Cさん】

私がなぜこの質問したかと言うと、先日、自伐型林業の勉強会があり、岩手県内から 20 数人集まりました。県内でも有名な方が釜石にいることを初めて知って、少し調べたら疑問に思いました。森林組合や業者さん等にやることもいいと思いますし、小さくても自伐型的にやることによって、色々な人を集めることが可能なのではないかと思いますので、そういう取り組みを定期的に行っていただきたいと思っています。

<産業振興部長>

おっしゃる通り釜石にもいらっしゃいますし、気仙地区の方々を中心に釜石の方もメンバーに入っているのですが、我々もその方々と意見交換をさせていただいています。同時に森組さんや自伐型のメンバーと今後森林の活用のあり方についても意見交換をしていましたので、新たな産業が生まれるような取り組みを進めて行きたいと思っています。

【Dさん】

先ほど市長から、人口も減っていて応援センターの見直しや地域会議のあり方の発言がありました。今まで地域会議は年 2 回やっていました。人口が 2 万人台になると、職員の数も減らさなければいけないというのは現実です。元行政にいた人間として勤めていた時はそういう情報が入ってくるので分かっていたのですが、いざ外に出てみるとやはり情報が少ないです。今日わかる範囲でこういうふうな考えを持っていますとか、何年後ぐらいにこうしたいですとか、話せる範囲でいいので、もしあればお伺いしたいと思います。

<総務企画部長>

令和8年度からの行政改革大綱を現在策定中です。釜石を良くしていくということでの計画は様々あります。行政改革大綱は、市役所の人材をどのように活用していくのかという話と、市役所全体の組織の話で、効率良く生産力を上げていくというものです。その中には当然、市でやっている施策に対してどのぐらいの職員が適切なのかということで、職員の適正管理をやっていく話です。それに合わせて、より効率的で今の市に合っている組織の見直しといった話の2つが大きな柱になっています。当然財政も、人口が減ってくれば収入が減るわけで、支出も限られてきますので、バランスをとりながら適正な行政運営をしていこうということになっています。その一環の中で、地域会議や応援センターがどうあるべきかの具体的な話にこれから入っていくところです。これまで20年ぐらい、応援センターを8地区に置いてスタートしているわけですが、その検証を踏まえて今後どうあるべきなのかというようなことを行政改革大綱の中にも盛り込んでいます。その5年間の中で、そういった方向性を見出していきたいということが現状報告できることだと思いますのでよろしくお願いします。

【Dさん】

定年延長で65歳までが義務化されて、70歳までが努力義務ということで定年が伸びています。町内会の運営で、役員になる人がなかなか少なくなってきました。皆さん71歳まで働く世代になってくると、どうやって町内会を運営していくのか。これは釜石だけの話ではないと思います。他の市町村でこういう取り組みをしているという事例がありましたらぜひ教えてもらいたいです。

あともう1つは、今後の色々な説明会をするときは、市ではこういうことをやりたい、こういうことに取り組みたいというたたき台を作ってもらって説明していただきたいです。できれば市長のリーダーシップでこういうことをやりたい、こういうまちを作りたい、こういうことに協力していただきたいという話があれば、地域でも意見が言えると思うのですごく助かります。

<市民生活部長>

町内会は市内に数多くありますが、どこでも抱えている問題はそのとおりです。定年延長だけではなく高齢化が進んでいるので、町内会の存続自体も危ぶまれているところもあります。その中でも、若い人がいればいいという問題でもなく、若い人が集まっても町内会の成り手にならなかつたり、色々な問題もあってこの解決策はなかなか難しいところだと捉えています。先ほど冒頭の市長のあいさつでもありましたが、地域力を高めていくことが、一番の肝なのではないかと思っています。できなくなってくれば全部市役所でやってくれという話になってきますが、市だけが全部できるわけでもなく、皆様の自助・

互助・共助をお願いすることもあるかと思います。多世代で交流しながら、若い人たちも参加できるような取り組みがあるのであれば、皆様に紹介していきたいと思います。また、地域力を高めている地域があるのであれば皆さんにPRして行って、活動等も紹介させていただきたいと思います。現在のところ、我々が把握している取り組みはないというところでご理解いただければと思います。

<副市長>

少し補足させていただきたいと思います。町内会ではどこもご苦労されているということを知っていました。職員には定年が延びても地域で活動するということが少なくなないように私たちも常に呼びかけています。毎年、職員の人事面談をやっています。その中でも、地域活動をやりなさいと、どんなことをあなたはやっていますかという問いかけをしながら、職員に推奨していきまして、その流れの中で消防団に入ったり、町内会の役員になったり、PTAをやってもらったり率先して取り組む職員もいますので、これからは更にそういった働きかけをしていきたいと思っています。

もう1つの町内会のあり方は、昨年の委員会でもやりとりがあった、町内会そのものの役割を少し減らしていくように考えていく必要もあるのでないかということです。私の地区では、ごみの当番と街路灯の管理はやろうと決めて取り組んでいますが、町内会そのものの荷物卸もあるのかなと思っています。率直に意見交換させていただくしかないのかなと思っています。

最後にお話があったたき台を持ってからくるというのはそのとおりです。これからの釜石のためにお互いよかれと思って活動していますので、もっと細やかにやっていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

【Eさん】

都市計画についてですが、私が住んでいるところは市街地まで遠いので、高齢者が病院に行くということになると、免許がないので連れて行ってくれないかと頼まれ乗せていくこともあります。そのときに非常に不便に感じたのは、病院に行ったついでに買い物や何か用足をしようとしたときに、この計画だととんでもない距離を移動しなければいけません。全くこの適正化の意味がないのでないかと思います。最低でも県立病院を新しくするのであれば、もっと市内に近いところに移して集約してほしいです。

それから公共交通機関の現状を見ますと、市内に行ってもバスに乗っている人は何人もいない現状です。公共交通機関もよく考えていただきたいと思います。極端な話、私が普段考えているのは、釜石に公共交通機関をなくした方がいいということです。市町村で三鉄に対する年間の補助金や人員を釜石全域まで通すための経費を考えると、これを全部無くしてバスにした方がよっぽど経費が安くてみんなが便利に過ごせるのでないかと思っています。なぜ、鉄道に固執するのか、不思議でなりません。こんなお金を使うのであれば

皆さんが便利に過ごせるようにバスを頻繁に通した方が効率的だと思います。

<保健福祉部長>

県立病院の場所について説明をさせていただきます。県内の県立病院の中で最も古いということでもかなり前から建て替えを要望してきました。コロナ禍もありましてなかなか示していただけなかったのですが、令和6年度、県の県立病院等経営計画が改定になりまして、釜石病院と遠野病院は早期に建て替え、計画期間内に着手すると示していただきました。ただ、場所については、現所在地またはその周辺ということでもなかなか市内に土地もないという状況の中で、現所在地周辺を想定した形で建て替えが実現した状況になっています。県立病院の方も赤字が続いていますし、この建て替えを逃すと厳しい状況もありますので、我々としては県の計画のとおり建設を進め、この先にわたって急性期の病院が維持される状況を実現したいと思っていますので、ご理解の方よろしくをお願いします。

<市民生活部長>

立地適正化計画を支えていくのは、地域公共交通であると認識しています。第三期釜石市地域公共交通計画を作っています。未来に続く暮らしとコミュニティを支える地域公共交通を実現したいという形の計画を作っているところです。前期の反省を生かして、後期にどのような形の計画を作っていくのかを今まさに作業中です。鉄道をやめて全部バスにすればいいのではないかとご意見もありましたが、市内の交通は、市が責任を持ってきちんと運営していかなければならないという話にもなっています。例えば橋野や唐丹にはコミュニティバスやにこにこバスを走らせているところですし、市の幹線部を走っているバスは地域公共交通事業者をお願いをして、市外に行くときにはJRが必ず必要になりますし、隣の大槌町に行く場合は三陸鉄道も必要な公共交通になります。鉄道も必要な公共交通ですので、守っていかなければならないと思っています。コミュニティバスやにこにこバス等、市民の皆さんの生活に密着する公共交通について、きちんと維持していく計画を現在作っていますので、ご了承いただければと思います。

【Aさん】

和山と世界遺産を抱き合わせた観光の情報発信をしてほしいです。情報発信をするということはお客さんが来るということです。お客さんが来るということはバスがきます。和山の牧場に進んでいくところの道路は5~6メートルしか道幅がないです。

もう1つは、風力事務所から屋上に上がる道路を拡張してほしいです。要望です。

<産業振興部長>

まず1つは観光という視点のお話かと思います。青ノ木をはじめ、全国や世界に発信すべき地域資源が複数あると我々も認識しています。その取り組みの内容は後期計画の資料

102 ページと 103 ページに施策を記載しています。これまでも市の歴史を踏まえても青ノ木の鉱山の資源、或いは平成 14 年から取り組んでいる風力発電を含めた和山のエリア等、地域の重要な資源と捉え、持続的に取り組みが進むような観光地域づくりという内容の取り組みを盛り込んでいます。継続的に取り組めるような地域の資源をつないだ観光地づくりの取り組みを 102、103 ページに記載しています。この取り組みを推進しながら、人がたくさん来て交流人口が生まれるような流れを作っていきたいと思っています。

2 点目ですが、ユーラスの事務所があったところを右に行くと和山の牧場に向かっていくところですね。今すぐに拡幅というのは厳しいところはあるのですが、放牧もこれから拡大していきますし、風力発電も拡張計画を計画通り進めていますので、さらなる和山の活用を考えた際に、道路の幅があった方が非常に便利だと我々も考えていますので、その点は今後、状況を見ながら判断していきたいと思っています。

<建設部長>

道路整備について回答させていただきます。これまでも道路問題については、私たちのも地域と一緒に話をし、いろいろ情報を共有させていただきました。昨年の暮れですが、関係者や振興局、市の方で意見交換をさせていただきました。今年も具体的に新たな道路整備の部分について、なかなか事業実施に至る現状ではないというところで、共有させていただいたと思っています。ただ、地域の方も道路に対して活動等をしている状況も情報は共有させていました。また振興局でも、定期的な意見交換をやっていきたいというお話をいただいていた。そのようなノウハウを踏まえて、引き続き機会を捉えながら、継続的に情報共有をさせていただきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

【Fさん】

再生可能エネルギーを推進すると聞いていましたし、カーボンニュートラルということでもいいことだと思うのですが、橋野町の沢楡川という川の上流に小水力発電を計画している事業者がいて話をしています。小水力発電は再生可能エネルギーの部分から推進していくとか、どういう関わりでいらっしゃるのか伺いたいです。事業者さんや地域部落との関わりをどういうふうに考えているのか出していただかないと。例えば取水口で毎秒何立米の水が流れていてそこから何立米とるのか。そうすると下流ではどう影響が起きるのか、そういう質問もしています。そこを数字だけで見せられてもわからないので、例えば映像で何立米の水が流れている勢いのところだと、ここから何立米とると今までの他の地域の例ではこういう姿が見られますと。そういうのを出していただければ私たちは分かりやすいという話をしても、そういう答えもなかなか出てこないのが現実です。もちろん環境に対して私たち住民がどれぐらいの意見を言ったら、発言の権利があるのかそういうところも疑問に思っています。或いは、道路をどれぐらい掘るのですか、どれぐらいのものを埋めるのですか。埋設する管が直径 60 センチぐらいのものを考え、2メートル掘る

と。幅だとどれぐらいになるのか。先の方は国有林の部分が多くなっていますが、下の部分には、上下に個人所有の山林もかかっています。そのような質問をしたときに答えが返ってこない。ですから、市としてどのように関わっているのか、どのように考えていらっしゃるのかお伺いしたいと思います。

<産業振興部長>

小水力発電は市の事業計画の中のものではないと認識しています。再生可能エネルギーの事業者の方々は、新聞等でもご承知のとおり太陽光パネルの事業者、小規模な小水力発電が非常に増えていて、色々な事業をしながら利益を生み出すという取り組みになっていると捉えています。再生可能エネルギーを進めて行くに当たっては、事業者或いは基礎自治体、加えて地域の方々の理解がないとなかなか計画通り進むことが厳しいものだと考えています。地域の理解を深められている状況にまだいいと考えています。我々も情報収集をして状況をしっかり把握した上で調べてみたいと思いますので、情報がわかり次第またお伝えしたいと思っています。

【Fさん】

現状では、町内会長や振興協議会の方たちがおっしゃるのは地域の分断は絶対避けなければいけないもので、かなり尽力なさって苦労していることが目に見えています。早急に対応していただいて、問題が起きないようによろしくお伺いしたいと思います。

<産業振興部長>

情報収集に努めていきたいと思っています。

■市長総括

本日は、本当にありがとうございます。本日6か所目の市政懇談会ということで人口減少社会における釜石市のまちづくりがどうあるべきなのかという意見、ご指摘、心配だったのだらうと思っていました。現在策定中の立地適正化計画ですが、昭和38年の人口が9万2,123人だったときにできていたことが、現在はその3分の1の人口になりできなくなることは多数あるのだと思っています。その当時持っていた公共施設も今は持つことができないものも多数あるのだと思っています。震災前、平成22年の人口が4万人でした。4万人いたときに持っていた公共施設も現在3万人を切ると持てなくなったということもやはり多くあるのだと思っています。それを踏まえて、我々が何を選びどのようなまちづくりをしていくのが大切だと思っていました。立地適正化計画を作る上で、職員が疑問に思っているのは、果たして集約ということが可能なのだろうかということです。それが行政の仕事なのだろうかと常にジレンマに思っているところです。市の中心部に全員住まわせることができるのであれば、それは確かにすごく効率的なまちなのだらうと思いますが、果

たしてそれが釜石なのだろうか、我々が選ぶまちなのだろうかと思います。自分が住んだ地域に年をとっても住み続けたいと思う気持ちは分かるものですから、それを行政の理屈、効率性だけで、ここに住んでくださいとやっていいのだろうか。常に疑問に思わなくてはいけないのだろうと強く戒めをしているところです。自分の住んでいたところに誇りと自信を持ってそこに住み続けると言ったような話も、生き方や価値観、人生観も大切にしたいと思っています。そんなまちづくりができるのかという話もそのとおりだと思います。だからバランスを取らなくてはいけないのだと思っています。色々なことに配慮し皆さんのお話を聞きながら進めていかなければいけないと思っています。今後ともよろしくお話ししたいと思います。